

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称	
事業名	171	市史編さん事業	会計	01	一般会計	
			款	02	総務費	
基本施策	36	歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	項	01	総務管理費	
			目	17	市史編さん費	
担当部課名	総務部総務課(市史編さん係)		細目	101	市史編さん事業	
作成者氏名	岡部隆次	連絡先	22-9601(52-4380)	細々目	01	市史編さん事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)			
ふるさと学習や郷土史研究をはじめとする伊賀市の歴史に興味をもつ市民全般(児童から大人まで)並びに市内外の研究機関・事業所・寺社等です。		古代から、日本の歴史そのものを構築する重要な一部分を占める本市の、歴史的な発展の歩みを史資料をもとに明らかにし、郷土に対する関心と正しい理解を深め、愛情と誇りを一層高めるとともに、本市の一体性の醸成に役立てます。また、編さんの過程で収集した貴重な史資料の散逸を防ぎ、将来に設置を検討している郷土史料館で公開出来るよう、それらを整理し保管します。			
本年度事業内容	①市史編さん及び発刊作業・・・伊賀市歴史研究会に業務委託し、同研究会と連携して次の主な業務を行います。 ・古代・中世資料編発刊に向けて、史料の調査・翻刻、史料カードの作成、掲載資料の抽出、原本校正、史料網文の執筆活動などを行います。 ②市史編さんのための史資料の調査・収集作業・・・伊賀市歴史研究会と連携して次の業務を行います。 ・史資料調査・整理、マイクロフィルム写真撮影、資料目録の作成、新聞資料・行政資料の収集・整理、伊賀地域関係研究文献・論文の収集などを行います。 ③市史編さん委員会、編集委員会、各時代の専門部会を開催し、編さんの基本方針や計画ならびに編集方法などを検討し、発刊に向けて準備します。 ④事業に対する市民の理解と協力を得るため、『広報いが市』に「市史編さんだより」を掲載し事業の普及活動を行います。				
開始年度	平成 17 年度	終了年度	平成 27 年度	根拠法令・要綱等	伊賀市史編さん要綱

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	1.6	1.6	1.8
	人件費合計(A)	11,520	11,520	12,960
②支出内訳(千円)	事業費(B)	25,860	27,676	32,000
	委託料	15,626	25,042	20,000
	賃金	0	0	1,587
	需要費	9,775	1,374	9,874
	その他	459	1,260	539
合計(A+B)		37,380	39,196	44,960
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担 その他特財			
一般財源		37,380	39,196	44,960
上記①～③に関する特記事項				
②需要費のH17・H19には、印刷製本費がそれぞれ7,690千円・9,000千円が含まれます。				
②賃金のH19では臨時職員1名分を見込んでいます。				

事業実績

活動指標	単位	実績値		
		H17	H18	H19
市史編さん及び発刊	巻	0	0	1
史資料の調査・収集	点	8090	5000	5000
委員会・部会の開催	回	9	15	16
広報いが市掲載	回	0	4	4

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
伊賀市史各編の発刊巻数(累計)	『伊賀市史』は、古代・中世、近世、近現代のそれぞれに資料編と通史編を1巻ずつと、年表・索引1巻の合計7巻の発刊を計画しています。伊賀市史刊行計画にのっとり年次的に発刊していく累計数値を指標としています。	巻	0 目標 ()	0	1
伊賀市史各編の有償・無償配布数(累計)	伊賀市史刊行計画にのっとり発刊する各編の有償・無償配布冊数の累計をもって事業成果の達成度合い指標とします。最も早い発刊は、19年度に予定する古代・中世資料編です。	冊	0 目標 ()	0	350

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

伊賀地域の自治体史は、旧上野市を除く旧町村史が昭和54年から58年にかけて作られました。旧上野市史は昭和36年に作られましたが、内容に乏しい概略版となっていた事と、今となっては陳腐化が進んだため、上野市制50周年記念事業として平成3年から新たな上野市史の編さんに着手しました。平成13年度から16年度にかけて上野市史民俗編・芭蕉編・文化財編・自然編・考古編が刊行されて、今回の市町村合併を迎えました。上野市史に残された歴史編を、合併を機に伊賀市史と名前を変え市域を拡大して編さんを継続しています。市民の協力により新たな史料が発見されると、史料の調査・整理・写真撮影・目録作成・翻刻・カード化・解説執筆と多くの作業が発生します。伊賀市史では、伊賀市歴史研究会に編さんの業務委託をお願いし同研究会と連携しながら事業を推進していますが、同研究会も人手不足である事と正規職員が2名しかいないので、事務事業の主たる目標である市史の発刊を刊行計画どおりに進めるためには、日本史知識をもつ正規職員を増員する事が必要となります。差し当たり臨時職員を雇用し係の庶務に当らせ、正規職員2名を編さん業務に専念させる事で改善を図ります。

評価	必要性	4	伊賀という地域は古代日本の歴史にも登場する重要な地域であって、現在でも文献や文化的な遺産にその発展の経緯を見る事ができます。市史の編さん事業は非常に地味な事業で効率性に改善の余地が残りますが、完成の暁には伊賀市の歴史のバイブルとなって、市民のふるさと学習や郷土史研究、市内外の研究者に必ず役立つものとなり、将来の伊賀市政発展の羅針盤となる事が期待できるものといえます。市史刊行計画に沿った発刊を引き続き推進します。	総合評価
	有効性	3		
	達成度	4		
	効率性	2		
				A